

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	北海道ベースドラニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0062		科目区分		/ 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		前期:2		
教科書/教材	教科書は使用しない / 配布プリント、ホームページ						
担当教員	後藤 孝行,宜保 達哉,戸村 豊明,中村 基訓,杉本 敬祐,松浦 裕志,富永 徳雄,平 智幸,外部講師 ,阿部 敬一郎,杉本 剛						
到達目標							
1. レポートや報告書を期限内までにまとめ、発表会にて報告および質疑応答ができる。 2. 工学の基本的知識を利用して、問題解決に取り組むことができる。 3. グループのメンバー間で協力して、問題解決に取り組むことができる。 4. 課題内容を理解し、問題を解決できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		地域の問題解決に目標を定め、期限内に目標以上の成果を上げることができる。		地域の問題解決に目標を定め、期限内に解決することができる。		地域の問題を期限内に解決することができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		北海道および地域の主力産業である農業・食品製造分野、および医療・福祉分野に、工学分野の知識・技術とビジネス的観点を合わせて活用し、課題解決やイノベーションを創出するためのPBL科目である。「北海道ベースドラニングⅠ」で計画したプロジェクトに対して、チーム内で計画を再検討し、期限内に装置・システムを開発し課題を解決する。授業最終日に成果発表を行い、討論を通してプロジェクトの達成度を客観的に相互に評価する。					
授業の進め方・方法		プロジェクトの遂行には、専門学科の異なるメンバーでチームを構成し、自らの専門分野と北海道ベースドラニングプログラム科目で身に付けたそれぞれの知識・技術を活用して、課題を解決する。					
注意点		本講義は“北海道ベースドラニングプログラム”の中の1科目として位置付けられており、別に示す専門科目（6科目/本校ホームページ参照）の他に、本講義を含む6科目を習得することで、プログラム修了となる。 中間・期末試験は実施せず、主にプレゼンテーション、取組状況およびレポート課題により評価する。よって、欠席・遅刻すること無く授業に参加すること。 “北海道ベースドラニングプログラム”にて開講される「最先端工学」や「最先端工学演習」の内容により、一部授業時間を変更して実施されることがある。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	SWOT 1（3社の紹介）		実際の企業の現状、課題をヒアリングし、事業内容を理解することができる。		
		2週	SWOT 2（企業分析）		SWOT分析ツールを用いて、企業の課題とその解決策を発見することができる。		
		3週	SWOT 3（まとめ・発表）		企業の課題解決の提案をまとめ、魅力的なプレゼンテーションを行うことができる。		
		4週	PBL地域の分析 （テーマのスクリーニング）		旭川を中心とした地域の課題の分析から、解決提案を行うためのデータ解析の仕組みを理解することができる。		
		5週	PBLテーマの決定前 具体的なテーマの分析		PBLの課題として各自が興味のあるテーマを出し合い、分析を行うことができる。		
		6週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		7週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		8週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
	2ndQ	9週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		10週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		11週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		12週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		
		13週	PBL（ACTION）		問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。		

		14週	PBL（ACTION）	問題点・課題解決（PDCA）を取り組み、Checkで明らかにした分析・検証課題について改善点を考えることができる（ACTION）。
		15週	反省会	発表会を通じて研究成果を振り返り、次の世代に引き継ぐことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	プレゼンテーション	レポート	取組状況			その他	合計
総合評価割合	15	45	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	5	15	20	0	0	0	40
分野横断的能力	10	30	20	0	0	0	60